

みんなで守ろう岐阜市の自然

岐阜市自然ふれあい地域ビジョン策定ワークショップ 第27号 平成18年9月発行

はじめに

岐阜市には、金華山、長良川をはじめとした誇るべき自然環境が多くあります。その一方、生活環境の変化、生活基盤を支える様々な整備により、貴重な自然環境が減少しているのもまた事実です。このような状況の中、現在ある岐阜市の貴重な自然環境を、次世代に残し伝えることが、私たちの役割です。

そのための第一歩として「岐阜市自然ふれあい地域ビジョン」策定に取り組みます！！



岐阜女子大学ビオトープ計画ワークショップ（9月5日開催）

- ・どんな環境があるのか現地を確認
- ・多種多様な環境には色々な生物が！！

どんな環境があるのか現地を確認

いくつもの洞が存在し、今も里山の風情を残す太郎丸地区。その太郎丸に立地する岐阜女子大学では大学敷地内に残されている豊かな自然環境を活用して、地域の学校や住民との交流や学びの場なるビオトープの整備計画づくりに取りかかっています。そのビオトープ計画の中心となっているのが、岐阜女子大学の太田先生と黒見先生、そして学生の皆さんです。

トンボ類研究の第一人者、安藤尚先生による講義の後は皆で現地に繰り出し、敷地内にどのような自然環境が広がっているのか、昆虫採取を行いながら現地の状況を確認していきました。敷地内には、多くの種類の動植物が生息する湿地環境が残されており、その周辺には近年まで整備されていたと思われる竹林、湿地の背後には放置されたスギ・ヒノキ植林や広葉樹林、





現地には、湿地、竹林、広葉樹林、スギ、ヒノキ人工林、池や水路といった多種多様な環境が見られました。

また、山の尾根近くにはアカマツ林も見受けられました。このような環境は、大学及び周辺の土地所有者の理解により、ビオトープという形で活用できることになっています。



トノサマバツタ



マユタテアカネ

多種多様な環境には色々な生物が！！

現地を散策する中でも、色々な生物を確認することができました。トンボだけでもマユタテアカネ、ヒメアカネ、ショウジョウトンボ、シオカラトンボ、コシアキトンボ、オニヤンマ・・・等々が確認されました。また、湿地横の路上では「アライグマの足跡」を確認しました。アライグマは作物被害や生態系への悪影響が懸念される外来生物であり、今後その影響についても注目する必要があるかもしれません。しかし、このような外来生物の問題も、元をたざせば人間の行為によるものです。やはり私達の生活と自然とのバランスについては、十分な注意が必要です。



ビオトープ気がつきメモ調査マップ

散策終了後、どのような生き物が確認されたか、環境の状況と合わせながら確認して地図に記録しました。

おわりに

現地の散策後は、確認した生き物や環境の状況を白図に記録をしていきました。今後このような記録を積み重ね現地の環境資源を把握することにより、これらの資源をどのように保全・再生、あるいはどのような環境の創造が必要なのかといった計画が立てられていきます。大学と地域の協働によるビオトープづくりが今後どのように進むのか見守っていきたいと思います。

自然ふれあい地域ビジョンに関する問い合わせ

岐阜市 人・自然共生部 みどり自然室 担当：吉村

TEL：058-265-4141 FAX：058-267-1374

E-mail：midori@city.gifu.gifu.jp

みどり自然室 HP アドレス：http://www.city.gifu.gifu.jp/splash/midori/index.html